

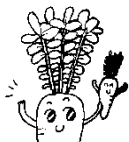
まちネット 寄居通信『さあ 手をつなご!』はみなさんの支援力がエネルギー源

ダンボールコンポスト講習会

生ごみがどんどん消える、不思議の世界

7月21日開催。会場：おぶすまコミセン

「生ごみを可燃ゴミにしてしまうのはもったいない」「ダンボール箱で誰でも簡単に良質なたい肥作りができます」と呼び掛け、まちねっと寄居がダンボールコンポストの普及に取り組んで10年となります。この間、延べ200人近い方々が受講してくださいました。久しぶりの講習会ですが、小学生を含めて8名の参加があり、参加者から感想を寄せいただきました。



参加した小学生の声

毎回生ゴミをダンボールに入れると、とっても小さい虫が食べてくれるなんてすごいですね!!びっくりしました。ちょっとだけやってみたくまりました。説明、分かりやすかったです。♡ありがとうございました。♡

小川朱音 (小3)



やっとスタートしました

「ダンボールコンポスト」の存在を知ったのは、数年前のことでした。いかにも「エコ」の響きに興味を持ちましたが、利用するには至りませんでした。7月21日の「ダンボールコンポスト講習会」のチ

ラシをいただき、「生ごみがどんどん消える。不思議の世界。夏休みの自由研究におすすめ！」というフレーズに心惹かれ、隣に住む小5の孫に声をかけてみました。即座に首を横に振られガッカリ。娘も忙しさを理由に遠慮。仕方なく、一人で受講させていただきました。講師の大北さんは、素敵な紙芝居を操りながら「ダンコちゃん」に愛をこめて流暢にお話ししてくださり、すっかりとりこになりました。基材を分けていただいて勇んで帰り、ワクワクしながらセットしたのですが、「これ入れても大丈夫かな？」などと足踏みしているうち、雑事に追われ、いつものゴミ箱へ。夏休みが終わりに近づく頃、昔いつも宿題に追われていた習性が蘇り、ようやく本気で取り組んだというのが正直なところですよ。

「コンポスト」と言えば、以前緑色の大きなプラスチック製のものを使ったことがあるのですが、ぼかしや土を入れ大きなスコップで混ぜるという「小さなハードル」につまずき、放置しているうちに虫が湧いたり、臭いがしたりで「臭いものに蓋」の状態になってしまいました。

始めるのも止めるのも気楽に

ダンボールコンポストは、基材が安価。手ごろなサイズでかき混ぜるのも簡単。匂いも嫌な臭いではなく、ほんのり伝わる熱がちょっと心地よく、愛しいような気持ちさえわいてきます。使用後も簡単に処理できるので、始めるのも止めるのも気楽。生ごみの減量化で、税金の削減、環境汚染減少への貢献と良いことばかりなのに、なぜ普及しないの？

置き場が課題

隣地に住む娘（高3・中3・小5と夫の5人家族）の場合を考えてみました。娘も生ごみを「燃えるゴミ」として出すより、家庭で処理できれば、との思いはあるのですが、子育てに忙しく（経済的・時間的・精神的など）余裕がありません。また、ダンボールコンポストは、小型、軽量とはいえ、置き場を考えなくてははいけません。玄関にはウサギがいて、勝手口にはスペースがなく、軒下では雨除けができず・・・。「良質なたい肥を求める必要のない家庭では「厄介者」でしかない。やはり、どのお宅でも

できるというわけにはいかないのだなあ、と思いました。

環境汚染のスピードは速く、小市民が歯止めをかけることなどできません。でも、大河の一滴でも何かをしなくては、子孫に申し訳ないと思う今日この頃です。

菅原

ダンボールコンポスト番外編



あっつ！！破裂しちゃった

講習会にサンプルとして皆さんにお見せした、私のダンボールコンポストがパンクしてしまいました。6月にスタートし、1か月ちょっと生ごみを投入し、温度も上がりとても順調でした。ところが8月に入っての長雨で湿度が高い日が続き、こんな時は冷蔵庫内の整理をしようと頑張り、賞味期限切れのきな粉やしけてしまったお菓子など少しカロリーの高いものを少量ずつ入れたのですが、一気に温度が上がりこんな無残な姿に。慌てて前回使っていた段ボール箱に移し替えました。「1個の段ボール箱を2回～3回使用しています」と自慢していたの

ですが、失敗です。油断するとこんなことも…。でも、温度が十分上がった分、分解が進みよいたい肥になりそうです。それにしても、厚いダンボール箱がこんなにブヨブヨとなってしまふほど生ごみを分解、発熱する（50～60度以上）微生物の力であらためてすごい！！と感激しました。

（上写真はスタート前、下 無残な姿に）

大北

ひと言 言わせて

『玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会』東京報告会に参加して

2017.7.7

報告者は永野浩二さんです。

この会は、福島原発事故前から、プルサーマル及び原発の恐ろしさを知り止めようと、息の長い困難な活動を続けています。しかし、国及び九州電力は再稼働に向けて強気に動いています。猛スピードで進められた再稼働のプロセスを見ると

2/24 玄海町議会同意 3/7 玄海町長同意
4/9 原子力防災大臣・知事面談 4/13 佐賀県議会同意
4/19 九電社長・知事面談 4/22 経産大臣・知事面談
4/24 佐賀県知事同意
となっています。住民に対する説明会もほとんど質問時間が与えられず、意見が反映されてきませんでした。

九州電力が設定している玄海原発の基準地震動は、想定される最大の揺れを 620 ガル にしていますが、熊本地震の最大の揺れは 1580 ガル、柏崎刈羽原発は 1699 ガル の揺れであった。これに対し九州電力は「玄海原発では熊本地震で観測された大きな揺れが 2 回続けて発生する可能性は極めて低い」と回答している。また、九電が戸別訪問で配ったパンフレットには、重大事故が発生した場合でも 格納容器は破損しない、放射性物質（セシウム137）の放射量は 4.5 テラベクレル（福島第一原発事故時の約 2000 分の 1）になる、住民は事故が起きても すぐに避難する必要はなく屋内退避とする、安全対策により 水素爆発は起きないため建物は壊れないことが 図入りで書いてあります。現在でも堂々と『安全神話』を謳っているのです。

玄海原発裁判の会は原告総数 967 名と、それを支える仲間たちで成り立っています。

①MOX 燃料使用差止請求事件 2010.8.9～

寄居町の可燃ごみ事情

●2016 年度可燃ゴミ：約 8839 トン（5 月 1 日現在人口 34,252 人）

生ごみの総量は調べていないが、全体的に減ってきている

●処理費用：約 4 億 7 千万円

*参考 2012 年度可燃ゴミ：約 1 万トン（生ごみ約 16.3%）

処理費用：約 2 億 5 千万円 うち生ごみ費用 4 千万円

*ゴミ総量は減ってきているが、処理施設の老朽化などで経費は驚くほど膨らんでいる。現在、寄居町の可燃ごみは、大里広域市町村組合で運営され、深谷、江南の清掃センターで焼却処理されている。役場窓口の話では、施設の老朽化に伴い、償却時の排出基準が厳しくなり、その基準値をクリアーするためのパテのような改修工事にかかなりの経費が掛かっているという。



②玄海 3.4 号基再稼働差止仮処分命令申立事件
2011.7.7～

③玄海全基運転差止請求事件 2011.12.27～

④玄海 3.4 号基運転停止命令義務付請求事件
2013.11.13～

これらの裁判を進めていくのは大変なエネルギーが必要と思われます。加えて、玄海町や他市町村を訪ね歩く、国・県・九電との交渉、座談会・集会を開く、ニュース発行などの活動をしています。本当に頭の下がる頑張りです。

2010年12月1日、MOX 裁判第1回口頭弁論での石丸初美（原告団団長）さんの意見陳述の一部を紹介します。

私達は事の真相を知った大人として、何も知らずに生まれ、何の益も受けず、ただただ核のゴミだけを私達の子・孫に残していく訳にはいきません。私達は、未来に安心できるふるさと自然を譲り渡し、未来の人にもこの世に生まれてよかったと言ってもらいたいだけです。そのために、今声をあげることが出来る大人の責務として、九州電力に対しプルサーマルの中止を求め提訴しました。



白井操子

「原爆」と「寄居町議会ネット中継」

この原稿内容は「原爆」に決めてはあったけれど、細かく考え始めたその日、8月30日、長崎の被爆者である谷口稜暉（たにぐちすみてる）さんが亡くなられた。偶然とはいえ、私は全く一方的に、おこ

がましくも「ああ、何て…ごめんなさい。」と胸が詰まった。この数年、「原爆」を思う事から遠ざかっていたから。

被爆者が書いた原爆の絵の衝撃

その思う事とは。「広島平和記念資料館」も「丸木美術館」も被爆者の方の貴重な体験談も私なりに知ってきた。どれも深く重く衝撃的で、むごくて、辛くて、悲しい。その中で、決して比べるつもりはないけれど、「被爆者が書いた原爆の絵」は、はっきりと言葉にすることが難しいほど衝撃的だ。原爆は毎度見せられる「モノクロ映像のキノコ雲」や、「閃光と爆風、衝撃波、熱線、放射線」という私の頭での理解なんか超えていた。

数千枚のその絵は「被爆者が書いた原爆の絵」でネット検索すると、見ることが出来る。とても、とても、惨い（むごい）絵がたくさん、たくさんある。心の準備をしてから、一度見て下さい。それは、ご供養であり、私たちにとって必見の警告であると思うから。

ここから話は少し変わる。今、書いているこの「ひと言」である、原爆について私はこう思った、という視点を持つ私は、この「まちネット」の一員としては何をすべきなのか？と自問自答。私の中でこの二つは、同じくしてあるという事だけではなくて、「ひと言・原爆」と「まちネット」は繋がっているはずだから。

今、私の中で「原爆」と繋がっている「まちネット」は、「寄居町議会ネット中継」。町も具体的に動き出しているけれど、ネットから更に何か働きかけられることあるんじゃない？この先の進捗状況を、この通信でお知らせしていかなばと思う。



それにしても、私の頭～、原爆の話が、なぜネット中継に繋がるの？「風が吹けば桶屋が儲かる」的、こじつけ話ではないと思う、思いたい。そうか、原爆→戦争→人の世は、危ないや、間違っていると思う事は、一人一人、みんなが声に出して言わないと もっと悪いこと、恐ろしいことになる事がある。→その為には、まずはネット中継を実現して町議会をよく知ろう→そして・・・ということかな。

K.Y

家庭菜園講座だより

2017. 7月8月の菜園

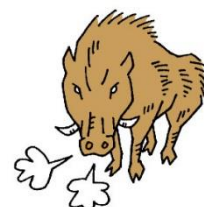
空梅雨の7月、長雨の8月と今年も天候不順の夏でしたが、畑の野菜たちは、頑張っておいしい恵みを届けてくれました。菜園参加者も少しずつ増えています。



木曜野菜市

7月現在、54,650円の売り上げカンパ
今市地区の増谷さん、鷹巣地区の大島さんより今年も新鮮でおいしい、野菜、卵を提供していただきました。天候不順の中、決して順調な生産状況ではなかったと思いますが、快く届けてくださり本当に助かりました。ありがとうございます。皆様のご厚意に本当に感謝です。

天候不順のほか、今年も鳥獣被害が深刻な状況です。町では、電気柵設置などに補助金を出していますよ



保管されている除染土及び 保管状況についての調査

生活クラブ寄居支部と取り組みました。7月回答

昨年6月、環境省が福島県の実験施設で出た除染土を公共事業に利用できる方針を決定。基準値の8000ベクレル以内を対象とするとのことですが、集中管理、移動させないことが大前提の汚染物質を再利用してよいのか、私たちは、子供や家族の健康を守るうえで、これが全国で実施される事態となることに大変な衝撃を受けました。そこで、県内の各自治体の見解調査を実施することになり、寄居町の環境衛生エコタウン課に回答をいただきました。

Q 福島県の汚染土の再利用の動きについて

- ① 国、県から情報あり ② マスコミの情報などで知った ③ 知らなかった
回答：② 知らなかった

Q 公共事業に使うことは

- ① 国の方針が確定すれば利用する ② 安全性などをしっかり検討したうえで利用する可能性はある ③ 住民の健康や不安を尊重し、どんな場合も利用しないようにしたい ④ その他
回答：④ その他（未定）

Q 町の放射性除染土の保管状況について

回答：保管はありません

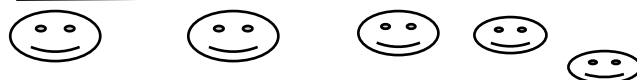
寄居町は、まだ動きのない状況ですが、今後の他の自治体の動きとともにしっかり見ていかなければと感じています。川越市では、国の方針が確定すれば利用する可能性があるといった回答が上がっています。

今後まだ未調査の自治体へ、再度の調査の呼びかけと11月には結果を受けての学習会を計画しています。

この子たちに安心できる未来を！



お知らせ



生活クラブ運動グループより 認知症サポートに関する学習会企画

- 1回目 10月5日 映画「俳諧ママリン 87歳の夏」 午前午後2回上映
会場：浦和コミュニティセンター集會室
2回目 11月予定 認知症サポーター養成講座
●1回目映画代1,000円は、まちネット寄居会員は1000円の補助が出ます。

大人の学校講座より 税金カフェ わかりやすい税金の話

- 10月3日 13時30分～15時30分
●参加費1,500円ですが、まちネット寄居会員は全額補助が出ます。
※2企画とも参加希望の方は、大北（582-4073）まで連絡をお願いします。

ネット会員募集

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることから出発。

自分たちの足元から見つめ、話していきましょう。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ・・・大北（582-4073）



編集後記

今年の夏も異常気象でした。地球規模の温暖化の影響が否定できないという専門家のコメントも。「今後も今まで経験したことのない気象が続くということです」とも。ふとずいぶん前に読んだ「大江戸エネルギー事情」を思い出しました。すべてが自然に変える暮らし、当たり前なのがどんどん遠のいています。自分たちの足元から、まずは自分が変わることから、日々怠慢を繰り返している己に喝を入れている夏の終わりです。

H. O